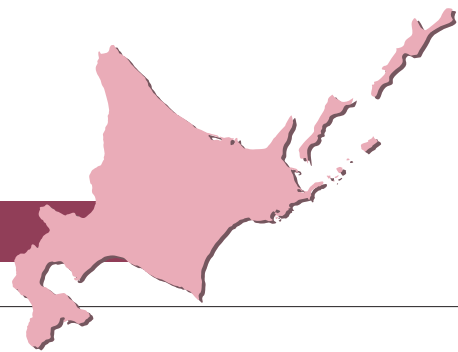


2月の道内景況

情報連絡員レポート

長引く新型コロナウイルス感染拡大により、大きく景況落ち込む



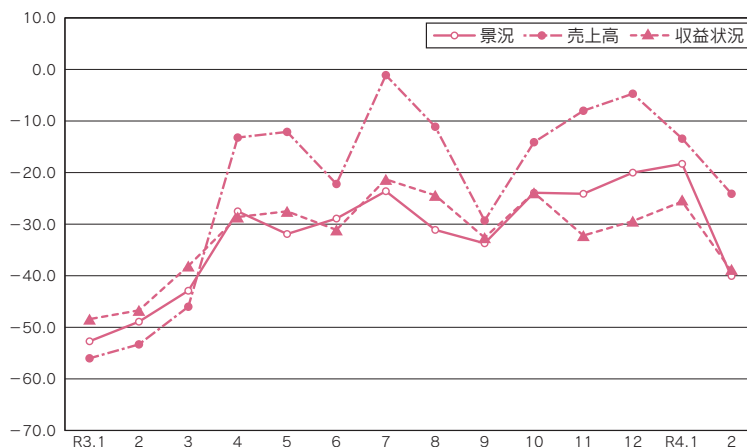
概況

全業種の主要DIの推移は、「景況」、「売上高」、「収益状況」の全てにおいて、前月よりマイナス幅が拡大し、厳しい結果となった。

情報連絡員からの報告によると、製造業は、「売上高」、「収益状況」が回復したが、原油や部品価格など原材料の高騰が見られ「景況」が大きくマイナスとなった。

非製造業では、長期化する新型コロナウイルス感染症の影響による消費マインドの落ち込みに加え、大雪による交通機関の運休等の影響により買物客が減少するなど、先の見通しを不安視する声があった。

主要DIの推移



景況天気図(前年同月比)

	全業種			製造業			非製造業		
	1月	2月	前月比	1月	2月	前月比	1月	2月	前月比
業界の景況	△18.3	△40.2	△21.9 ↓	△3.4	△26.7	△23.2 ↓	△26.4	△47.4	△21.0 ↓
売上高	△13.4	△24.1	△10.7 ↓	△24.1	△16.7	7.5 ↑	△7.5	△28.1	△20.5 ↓
収益状況	△25.6	△39.1	△13.5 ↓	△31.0	△30.0	1.0 ↑	△22.6	△43.9	△21.2 ↓
販売価格	13.4	21.8	8.4 ↑	10.3	13.3	3.0 ↑	15.1	26.3	11.2 ↑
取引条件	△9.8	△19.5	△9.8 ↓	0.0	△13.3	△13.3 ↓	△15.1	△22.8	△7.7 ↓
資金繰り	△11.0	△19.5	△8.6 ↓	△13.8	△20.0	△6.2 ↓	△9.4	△19.3	△9.9 ↓
雇用人員	△14.6	△19.5	△4.9 ↓	△13.8	△16.7	△2.9 ↓	△15.1	△21.1	△6.0 ↓

(凡例)

30 以上

10 ~ 29

9 ~ △ 10

△ 11 ~ △ 29

△ 30 以下



天気図の見方 各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」(または「好転」)したという回答(構成比)から「減少」(または「悪化」)という回答(構成比)を差し引いた値(DI)をもとに作成。天気の表示は凡例のとおりです。

製造業

- ・流水到来時期であり、沿岸漁業は 3 月 10 日まで休漁中。加工場は、主力の帆立原料が少なく稼働縮小中である。(水産食料品/網走)
- ・新型コロナウイルス感染による影響で、業務店だけではなく学校関係、施設、病院等の注文が激減。小麦粉等の原材料の高騰、重油等の更なる値上げにより各社値上げせざるを得ない状況だが収益はますます悪化している。(めん類/全道)
- ・味噌出荷量（道内）：単月（令和 4 年 1 月） 前年対比 102.1%
醤油出荷量（道内）：単月（令和 4 年 1 月） 前年対比 99.3%
 - ・令和 3 年 1 月～ 12 月の道内・累計出荷量：味噌 前年対比 95.0%
；醤油 前年対比 95.5%
 - ・令和 3 年 1 月～ 12 月の全国・累計出荷量：味噌 前年対比 97.4%
；醤油 前年対比 100.2%

- ・令和 4 年 1 月の道内単月出荷量は、味噌が良く、醤油は前年並み。
- ・令和 3 年 1 月～ 12 月の全国の累計出荷量は、醤油が前年並み。
- ・道内は、味噌・醤油とも全国平均より悪い結果となった。
- ・新型コロナウイルス禍の収束が不透明な中、今後も業務用出荷量の回復次第で、状況が変化して来ると思われる。
- ・エネルギー資源や原材料価格の高騰等で、大手及び主な中堅企業が味噌、醤油の値上げを発表している。(味噌・醤油/全道)
- ・トドマツ原木は、カラマツ原木不足により需要が増加している。価格が上昇傾向にあり、国有林材の調達が出来ている工場でも不足感が出てきている模様である。
- ・カラマツ原木は、入荷量に比べて消費量が増加していることから慢性的な原木不足は、未だ解消される見込みがない状況。
- ・状況については、保合～強含みで推移。
- ・製材状況は、エソ・トドマツは、強保合～強含みが見込まれる。カラマツは、保合～強保合。
- ・紙原料は、製材工場がフル稼働している関係で看板チップが出ている模様。
- ・木質バイオマス原料については、順調に集荷されている模様。
- ・先月と大きく変わらず、外材の高騰も高止まり、道産建築材は引き合いがある模様。

(一般製材/全道)

・原木中材量も徐々に回復してきて、原木在庫は前年同月比ではまだ 88%ではあるが、今年度の道では一番多い在庫量になっている。その効果もあって、歩留まりも回復している。(一般製材/十勝)

- ・新型コロナウイルス感染拡大が続く、さらに原材料等の値上げなど、業界を取り巻く環境は依然として厳しい状況である。(印刷/札幌)
- ・2 月の生産出荷量はおよそ 146 千 m³。(前年同月比 89.9%)
- ・地域別には、前年同月を上回った分会（協組）は 29 分会（協組）中、14 分会（協組）で前

非製造業（卸・小売・商店街・サービス業）

- ・再び新型コロナウイルスまん延防止措置が発令され、百貨店や商業施設の来店客が急減したことで売上は低迷するも、前年対比では売上増加との回答が上回った。
- ・靴などの季節商品は在庫処分がクリアランスセール時期に当たり、百貨店との取引では返品増加が懸念されている。
- ・資材の高騰、ガソリン価格の高騰で仕入れや物流のコストが増加し、収益は低下傾向で今後も影響が出てくる見込み。
- ・組合設備の会議室、展示室の利用は年々並みに戻りつつあったが、コロナの急拡大によりキャンセルが目立っている。(各種商品/帯広)
- ・コロナ禍の影響は、世間一般的には 2 月上旬が感染者のピークと言われていたようであるが、残念ながら、ここ十勝では日々 3 月末の感染者数、老健施設や学校等々でクラスターも日々報告されている。収束が見えないなか経済活動の停滞が懸念される。

- 当組合としては、年度末近くとなり、2 月に開催を予定していた研修会等々は中止となった。(各種商品/帯広)
- ・2 月期の当組合の買付高は仲卸、荷受合計で 1,202,404 千円で先月の 1 月期実績より 72,630 千円ほど増加した。2 月は稼働日数が少なかったものの買付額が増額している背景として、昨年未からの根拠野菜を中心とした異様な高値によるところが大きく、買付数量が増えたためではなく好ましい状況とは言えない。春先に向けての本州、九州を中心とした根拠野菜の作況の改善に期待したいところである。コロナ禍のまん延防止措置が延長になって消費動向は改善の兆を見せないが、来月以降に期待したい。(野菜・果実/十勝)
 - ・前年のうろうろ年反動の影響もあり、前年数値を上回る状況にあったが、まん延防止等重点措置の発出、延ばれ再び外出自粛傾向が強く、内食への恩恵も薄くなっており、商況は厳しいところが多い。観光面での影響長期化で事業所の閉鎖傾斜と事業の縮小も聞かれる。(菓子/全道)

- ・商品の価格高騰が続いている。(電気資材/全道)
- ・まん延防止措置の適用以降も感染は収まらず、休業する飲食店が増え、外出を自粛する状況が続いているのと、燃料価格の上昇が更に拍車をかけて消費マインドが冷え込んだ。燃料関係が前年比 113%の増加となった他は全ての業種が前年割れとなった。一昨年と比較すると、物価・金融ともに大幅な落ち込みであり、厳しい状況が続いている。(各種商品/十勝)
- ・コロナ感染者の増加、大雪による JR の運休により買物客が激減した。閉店を早めたり、従業員を休ませたりする店もあった。月末特売日では、午前 10 時頃になってようやく込み合ってきたが昼間には、平日のような状況に戻った。(各種商品/小樽)

- ・2 月はまん延防止等重点措置期間であってどの組合員店も軒並み前年マイナスの状況であった。業種別では、ガソリン、灯油を扱う組合員店が唯一プラスで推移したことを除けば、衣料品、貴金属を扱う店舗においては大きくマイナス、クリーニングや調剤など生活に欠けられない部門においては若干のマイナスといった内訳である。2 月は組合員店主の逝去もあり事業継続も心配されていることから、組合員数の減少が心配されている。(各種商品/釧路)

- ・従来から 2 月は閑散期であるも、コロナ禍の影響により売上減少が顕著化している。この 2 月には丸々 1 か月間のまん延防止措置期間となり、飲食店の売上が著しく減少。それに伴い、飲食店に卸しているお酒なども販売がストップ。一般小売店も来店客数の減少が目立ち、資金繰りが多忙となっている。(各種商品/日高)

- ・まん延防止等重点措置が、予想通り再延長となり、春休み期間の需要増を期待していた函館市町の各店舗でも落胆の声と共にまん延防止の効果を疑問視する声が上がっている。相変わらず協力金の支援対象から外れており、更にその協力金の支援対象優遇を期待して取得したはずの第三者認証が、取得したために 11 時からアルコール提供を遵守せざるを得ず、時短営業の制限が反対に定かそとなってしまうという飲食店も数多くある。ただ、仮に協力金の対象となっていたとしても、支援対象は飲食店ばかりで、朝市の大半を占める物販店においては、何ともしや切れない状況が続いており、疲勞の色が濃くなる一方である。(各種商品/函館)

- ・大雪での交通渋滞でお客様も外出できず、売上ダウン。商品の魚も産地から入荷がなく、店では値引商品が多く利益が厳しい。商品価格は主力商品が値上がりして売上をなかなか作れない。(各種食料品/道央)

- ・巣ごもりが長く続き、家電の需要が落ち着いたこともあり、売上の減少が続いている。大雪の影響でお客様へ訪問できない事も影響している。(電気機械器具/全道)

- ・組合全体の前年比は 92.1%。食品スーパー関連の前年比は 91.1%、ホームセンターは 87.0%、上記以外の一般店は 98.1%であった。1 月の下旬から始まった「まん延防止重点措置」も 2 月ひと月かけて実施され、3 月にも延びようとしていますしニュースで流れる家庭用電力の値上げ報道と購買意欲の減退と生活が手に入り入っていると思われる。(各種食料品/戸別)

- ・売上高対前年比 101.65%の実績。

非製造業（建設・運輸業）

- ・令和 4 年 2 月の業況として、民間工事において地域差はあると思いますが、新年度に向けて多くの計画がされてきているように感じます。新年度に入る前に仕事を確保し、年度のはじめから遊びなく、会社運営をしていく事が出来る様にしていくと良いように思います。反面、資材や機器などの価格の上昇や人手への不透明さはまだまだ続いていることが予想されます。また原油価格の高騰により、ガソリンや灯油などの価格もまだまだ下がっていかない状況です。更なる工事での原価の低減や職場で使用する経費を圧縮するため、更なる効率のよい働き方を進めていく必要があるように思います。
- ・コロナウイルスにより制限の多い活動になりますが、企業や業界として、働く方たちが少しでも安心して働けるような環境をつくっていくことが出来たら良いと思う。(電気工事/全道)
- ・各社とも水道管や排水管の凍結修理がメインだが、昨年度と比較して修理件数は少ない。昨年より降雪量が少ないことから除雪を請け負っている組合員はあまり忙しくない。
- ・石油や資材の高騰により各社とも経営を圧迫している。(管工事/名寄)

年と同数であった。前年同月と比較して、増加したのは北渡島、小樽地区、十勝地方であった。一方、減少したのは札幌、苫小牧、千歳地区などであった。

- (窯業・土石製品製造業/全道・生コン)
- ・十勝地域では、2 月はプラント設備の稼働はなく、砂利の動きもないことから前年と変化はない。
- ・3 月に入って設備の修繕に入る。(窯業・土石製品製造業/全道・砕石)
- ・原価が大幅に上昇し、厳しい経営環境にある。(窯業・土石製品製造業/十勝・砕石)
- ・原油、原材料、運搬費、人件費など材料にかかるもの全てが値上りとなり、仕入価格は上昇している。

- ・販売価格の上昇が徐々に浸透してくると考えられが、一方で、需要と供給のバランスが逆転し、小規模の販売店、工事店には、材料が入らないという最悪の状況に向かう可能性がある。
- ・相変わらず元請の建築業者、サッシ工事店からの見積り依頼がほとんどないに等しい状態である。(窯業・土石製品製造業/全道・ガラス)

- ・景況は前年同月からは上昇しているものの、直近の原料高・資源高などで経営環境は悪化している。

- ・原料スクラップは上昇中。鋳物用鉄銑は国内メーカーが 4 月より値上げ。ガソリン、灯油、ガス料金の値上げ。ウクライナ情勢によりロシアとの取引が出来なくなっている。
- ・半導体不足、輸入部品不足で設備保全・更新に影響が出ている。(鉄鋳鉄物/全道)

- ・昨年の発注回復で多くの造船所は 2 年から 2 年半の受注量を確保したことでこれからの受注する船は高付加船舶などに注力する傾向が続いている。

- ・受注船舶も上昇傾向で仕事量も確保しているが、人員不足と熟練技術者の確保が難しくなっている。
- ・新型コロナウイルスにおいては、比較的影響がない業種ではあるが、原油高や資材高騰も含んだ状況の中で、いよいよメーカーからの部品値上げの要請も出てきている。経済環境の不透明さも踏まえて、今後の影響が懸念される。(金属工作機械/釧路)

- ・コロナの影響が払拭されない。
- ・原油価格高騰により仕入れ価格・運送費等負担が出てきている。
- ・ロシアの影響がこれからどうなるか非常に不安である。(金属工作機械/全道)

- ・鋼材の仕入が必要量の確保が難しくなっている。
- ・先行きのコストアップ要因として電力料金のアップが懸念される。(金属工作機械/旭川)

- ・国内はコロナ禍における影響が続く中、世界を見れば他国への侵略が、今後、日本に与える影響が図り知れない状況と思われる。資源を輸入に頼る我々は原油価格の高騰による物価上昇が生活基盤を揺るがしかねない事態と思う。各産業においても、経営の観点から厳しくなることも予想される。自助努力だけでは限界があり、コロナ対策、景気対策などの課題はやはり国に頼らざるを得ないと思う。(家具/旭川)

- ・来店客数は減少している。
- ・取引先にホテル、飲食品等を抱える青果業者は依然として厳しい状況にある。(野菜・果実/札幌)
- ・まん延防止のため、平日の入店客は減少しているが、週末は賑わいを見せている。
- ・「和商に日」に北海道の補助金を活用し、応募型のイベントを開催した結果、成果もあり集客が見込めた。
- ・帯広のフルーツランドや鶴岡村のケーキ販売などの催事も賑わっていた。

- ・来店客にはマスクの着用、出入り口にはアルコール消毒を設置し、館内放送にてお願いをし、定期的に出入り口を開放し、換気対策を実施している。

- ・店内の、お客様が利用したテーブルには、飛沫対策のアクリル板を設置し、テーブルやイスはこまめにアルコール消毒をしている。(鮮魚/釧路)

- ・2 月は原油価格が上昇、併せて卸値も上昇、国の燃料油激変緩和対策事業の元売りに対しての補助以上卸値が上がるも末端での値上げは抑えてきた模様。しかし、3 月に入り抑えも限界となっており SS での未達分の底上げも考えられる状況となっている。収支状況悪く利益は圧縮状態が続いている。(燃料小売/旭川)

- ・中東原油価格をみると、先月に引き続き上昇傾向にある中、2 月下旬にロシアがウクライナへ侵攻したことから一気に急騰し、月末には 1 バレル当たり 100 ドルに迫る高水準となった。

- ・このため、SS におけるガソリン価格も同様に上昇傾向にあり、1 リットル 170 円を超える高値となった。また、灯油も一部地域では 1 リットル 117 円の高値となっている。政府では、燃料油価格激変緩和対策事業を実施し、石油の元売事業者等に対し補助金を交付しているが、既に補助上限（1 リットル当たり 5 円）に達していることから、今後も原油価格の高騰が続けば現状の補助金額では仕切り価格の上昇を抑えることができない。そのコスト増分は小売価格に反映せざるを得ず、石油製品販売に悪影響を及ぼすことが想定される。

- ・また、全国ベースでのガソリン販売量を見ると、依然としてコロナ前の状況に回復していない。石油製品の店頭価格は、ガソリン、灯油とも相当高い水準にあることから、消費者の買い控え等による販売量の減少が懸念されるほか、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が継続していることとも先行きの不安要素の一つとなっていると思われる。(燃料小売/全道)

- ・緊急状態が続く中で、大手・中小、共に原油価格の高騰に危機感を持っている。原油の高騰にともない飼育肥料の高騰、輸送コストの高騰など農業関係の全ての物の価格高騰が予想される。又、牛乳の生産調整が北海道の畜産農家に適用されるよう大手・中小共に、消費拡大を企業間で探っている。(農機用機械器具/全道)

- ・新車の販売価格上昇等中古車の販売価格も多少上昇しています。燃料の価格の高騰もあり、ある程度の水準に早く落ちつく事を希望します。(中古自動車/札幌)
- ・札幌近郊は大雪の影響が大きく、除雪機などの売れ行きが良い。(自転車・自動車)

- ・百貨店の 1 月売上高は、4 億 5,852 万円（前年同月比 3.4%増）。

- ・2 月共通証券券の利用は、前年同月比 83.9%、買物共通証券バ券は、前年同月比 14.5%。
- ・新規来店客が急増、まん延防止措置の適用で、飲食店休業など厳しい状況が続いている。(各種商品/帯広)

- ・ガソリン、灯油の高騰により固定費の負担が大きくなっており、又、卸売価格の値上げにより景況が不透明である。

- ・まん延防止が延長となり新規予約の停滞は続き、キャンセルも伴っている。
- ・2 月 1 日から月間休業している施設もあるため、前年より大きく集客を下げた。

- (旅館/十勝)
- ・オミクロン株の相変わらずの上昇、まん延防止法の延長等利用者の減少不安。それに加え営業用燃料の高騰及び光熱費その他備品等の値上り、非常に厳しい。(公共浴場/全道)

- ・30 代前半以下の技術系人材不足と採用の困難さが引き続いている道内 IT 業界だが、50 代のミドル世代の求職者と即戦力を求める道内の中小 IT 企業の利害が一致して転職市場が動き始めている。

- ・中途採用としては敬遠されがちな年代だが、コロナ禍でも DX化や新規事業に乗り出す道内企業が増えてシステム開発業務が伸びていることから、開発に必要な技術人材の確保のために、50 代の転職者採用に間口を広げている。転職者側も役職定年が迫り、昇給チャンスが減り、働き方改革で残業もできなくなっている状況から転職に踏み切る人材が増えている。50 代の転職者は家庭環境に左右されるケースが大きいが、働く場所に捉われないテレワーク勤務や現職の在籍企業より長く働いて長期的な収入も見込まれ、能力次第でミドル世代も見込めるという魅力もある。今後も転職者の経験豊富なスキルや専門領域に精通してミドル世代の中途採用が加速する可能性が大きい、道内中小 IT 企業が経営課題である人材不足を解消して事業の成長につなげることで大きく一石二鳥以上の効果が期待できる。(ソフトウェア/全道)

- ・売上高は、前年同月比 5.29%増加。
- ・乗務員数は、前年同月比 9.2%減少。
- ・1 月分チケット取扱高は、前年同月比 44.8%増加。(一般乗用旅客/旭川)

- ・コロナのまん延防止で消費が落ち込んでいるため貨物が減少している。
- (一般貨物自動車運送/小樽)

- ・大雪の影響で JR の運休が長期化、そのため本州方面のトレーラー輸送は、一時的に需要が高まった。
- ・一般雑貨・日用品についても低調な状況が続いている。

- ・燃料に關しては、政府の補助金の給付が開始されたが、それを上回る価格高騰が進んでおり収益は悪化している。顧客への運賃値上げ交渉も進んでいない。(一般貨物自動車運送/石狩)

- ・燃料価格の高騰で収益が悪化している。
- (一般貨物自動車運送/苫小牧)